

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 27 章 11～26 節>

①バラバに惹かれるかもしれないが、ピラトに注目すること！

イエス様に代わって命を救われたバラバのことが気になるかもしれませんが。しかし、この個所で問題とすべきはまずピラトです。すでに大祭司によって死刑を宣告されたに等しいイエス様 (26:65-66)。しかし、聖書はさらにローマの総督ピラトが死刑宣告 (27:26) したことを告げるのです。その意味を考える必要があります。

②「使徒信条」に名前入りで登場するピラト。その意味は？

ピラトは「使徒信条」にマリア以外に出て来る唯一の人名です。聖書を読むと、ピラトはイエス様に同情的に思えます。しかし、使徒信条には、「**ポンティオ・ピラトのもとに苦しみを受け**」とあります。神の選びの民であるユダヤ人がイエス様を死に追い込みました。しかし、異邦人のローマ総督ピラトはそれを阻止しようと思えばできたのに、民衆の勢いに押されてできませんでした。彼は公権力の代表ですから、公正に裁きをなす責任があります。ですから、同情的であるのに死刑を言い渡したピラト責任はより重いのです。罪無き者を死に追い込む罪です。いくら形式的な清めを行っても (24)、神様の前でこの罪を拭うことはできません。ですから、私たちはここで、聖書を正しく深く読むために作られたものである信条を通して、公権力のあるべき姿と罪について教えられるのです。

③バラバになり、「なぜ生かされたのか」と考えることが大切！

しかし、イエス様を死に追いやったのは大祭司やピラトだけでなく、扇動されてしまった民衆の責任も大きいのです。この民衆の姿の中にも私たち自身の姿も見なければなりません。以上、これら三者の罪を考えた後に関心を持っていいのがバラバです。自分の犯した過ち (マルコ 15:7) の故に十字架につけられるはずだったバラバ。なのに、何故か主イエスに代わって生かされたバラバもまた私たちの代表です！ なぜなら、私たちもまた色んな罪を犯しているにも関わらず、主によって赦され、生かされているからです！ その命をどう用いるか、バラバと共に思い巡らすことが大事です (『バラバ』と『光あるうちに光の中を歩め』(トルストイ著) を推薦)。